



令和2年度
佐賀県子どもの生活実態調査
報告書



佐賀県子育て応援キャラクター
さがっぴい

令和3年3月
佐賀県健康福祉部男女参画・こども局

はじめに

2019年国民生活基礎調査において、OECDの所得定義の新基準(可処分所得の算出に用いる拠出金の中に、新たに自動車税等及び企業年金・個人年金等を追加)に基づき算出した「子どもの貧困率」は14.0%となっており、約7人に1人が貧困状態にあるとされています。

子どもの貧困が社会問題化する中、貧困が親世代から子どもの世代へ世代を超えて連鎖することがないよう、本県では、国の「子どもの貧困対策に関する大綱」を踏まえ、すべての子どもたちが、現在から将来にわたって、その生まれ育った環境に左右されることなく自らの夢や希望を持って、その実現に向かい、安心して健やかに成長できる社会を実現するため、子どもの貧困対策を総合的に推進しているところです。

「子育てし大県“さが”」を目指す本県では、県民の皆さまに「佐賀で子育てがしたい」と思ってもらえるよう、様々な支援に取り組んでいます。今回の調査で得られた結果を子ども及び子育て家庭に対する支援施策の更なる充実に活かしていきます。

また、この報告書が、市町、学校等関係者の皆さまをはじめ多くの方に活用いただけると幸いです。

この調査の実施に当たり、回答に御協力いただきました御家庭及び児童の皆さまをはじめ、調査に御協力いただきました学校や市町等関係者の皆さまに対し、深く感謝申し上げます。

令和3年3月

佐賀県男女参画・こども局こども家庭課

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果の概要	
1. 子どもと過ごす時間(保護者回答)	3
2. 子どもに行っている体験・経験(保護者回答)	4
3. 食事の頻度(児童回答)	5
4. 一緒に食事する相手(児童回答)	6
5. 歯みがき・入浴の習慣(児童回答)	8
6. 子どもの歯科医の受診状況(保護者回答)	9
7. 家庭内でのインターネット環境(保護者回答)	10
8. クラス内での学習成績(児童回答)	11
9. 希望する進学先(児童回答)	12
10. 想定する子どもの進学先(保護者回答)	14
11. コロナ禍で困ったこと(保護者回答)	16
12. 暮らし向き(保護者回答)	17

I 調査の概要

1. 調査の目的

佐賀県内の子ども及び子育て家庭の生活の実態を把握し、子ども及び子育て家庭に対する支援施策の充実を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象

無作為に抽出した県内の小学校2年生の保護者、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の保護者及び児童

学年	対象者	配布世帯数	回収数	回収率
小学校2年生	保護者	1,513	938	62.0%
小学校5年生	児童及び保護者	1,513	912	60.3%
中学校2年生	児童及び保護者	1,509	847	56.1%
高等学校2年生	児童及び保護者	1,500	819	54.6%

3. 調査方法

- ・ 無作為抽出により対象となった各学校に調査票(保護者用及び児童用)を配付し、学校において無作為に抽出した対象学年の児童に調査票を配付
- ・ 調査対象となった児童の家庭において回答された調査票を郵送で回収

4. 調査期間

令和2年(2020年)7月17日～令和2年(2020年)8月21日

5. 集計結果利用上の注意

- ・ 本調査は、個人情報保護のため無記名で行った。
- ・ 回答間で矛盾が認められる場合があるが、回答内容を尊重し、論理的な矛盾を正すための修正は行っていない。
- ・ 図表中に示す『n』は、比率算出上の基数となる総数(標本数)を示している。
- ・ 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

6. クロス集計項目について

(1) 世帯類型

世帯類型については、親の婚姻状況に関する設問において、「離婚」、「死別」、「未婚」と回答した世帯を『ひとり親家庭』と区分し、ひとり親家庭を含む世帯全体を『全世帯』と区分している。

(2) 所得類型

所得類型については、以下の方法により区分している。

- ① 家族構成に関する設問と世帯年間収入に関する設問に対する回答に基づき、家族人数による差を調整するため、当該世帯の収入を同居している家族人数の平方根で除した金額を算出した(世帯年間収入 \div $\sqrt{\text{家族人数}}$)。
- ② ①で算出した金額を高い順に並べ、その中央値を算出した(中央値275万円)。
- ③ ②で算出した中央値(275万円)の二分の一の金額(137.5万円)未満の世帯を『低所得世帯』、それ以外の世帯を『非低所得世帯』と区分している。

表1 世帯年間収入÷√家族人数

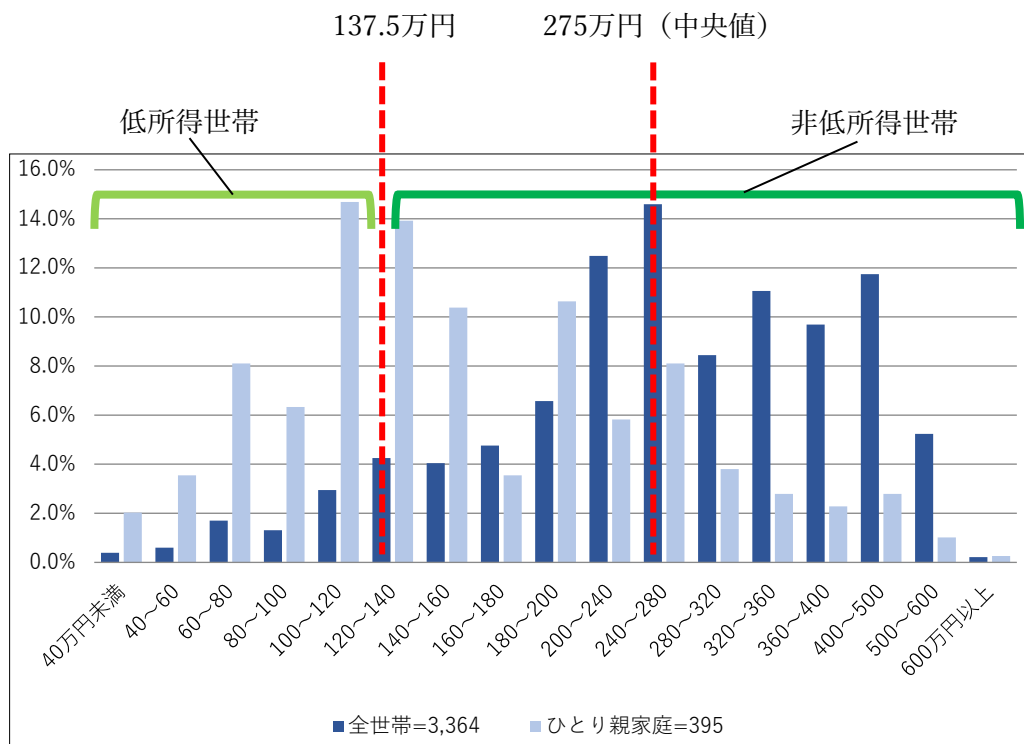
上段：世帯数 下段：%	世帯年間収入÷√家族人数								
	40万円未満	40~60万円未満	60~80万円未満	80~100万円未満	100~120万円未満	120~140万円未満	140~160万円未満	160~180万円未満	180~200万円未満
全世帯 (n=3,364)	13 0.4%	20 0.6%	57 1.7%	44 1.3%	99 2.9%	143 4.3%	136 4.0%	160 4.8%	221 6.6%
ひとり親家庭 (n=395)	8 2.0%	14 3.5%	32 8.1%	25 6.3%	58 14.7%	55 13.9%	41 10.4%	14 3.5%	42 10.6%

上段：世帯数 下段：%	世帯年間収入÷√家族人数							
	200~240万円未満	240~280万円未満	280~320万円未満	320~360万円未満	360~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600万円以上
全世帯 (n=3,364)	420 12.5%	491 14.6%	284 8.4%	372 11.1%	326 9.7%	395 11.7%	176 5.2%	7 0.2%
ひとり親家庭 (n=395)	23 5.8%	32 8.1%	15 3.8%	11 2.8%	9 2.3%	11 2.8%	4 1.0%	1 0.3%

表2 所得類型による割合

上段：世帯数 下段：%	低所得世帯 (137.5万円未満)	非低所得世帯 (137.5万円以上)
全世帯 (n=3,364)	337 10.0%	3,027 90.0%
ひとり親家庭 (n=395)	183 46.3%	212 53.7%

図1 所得類型による割合



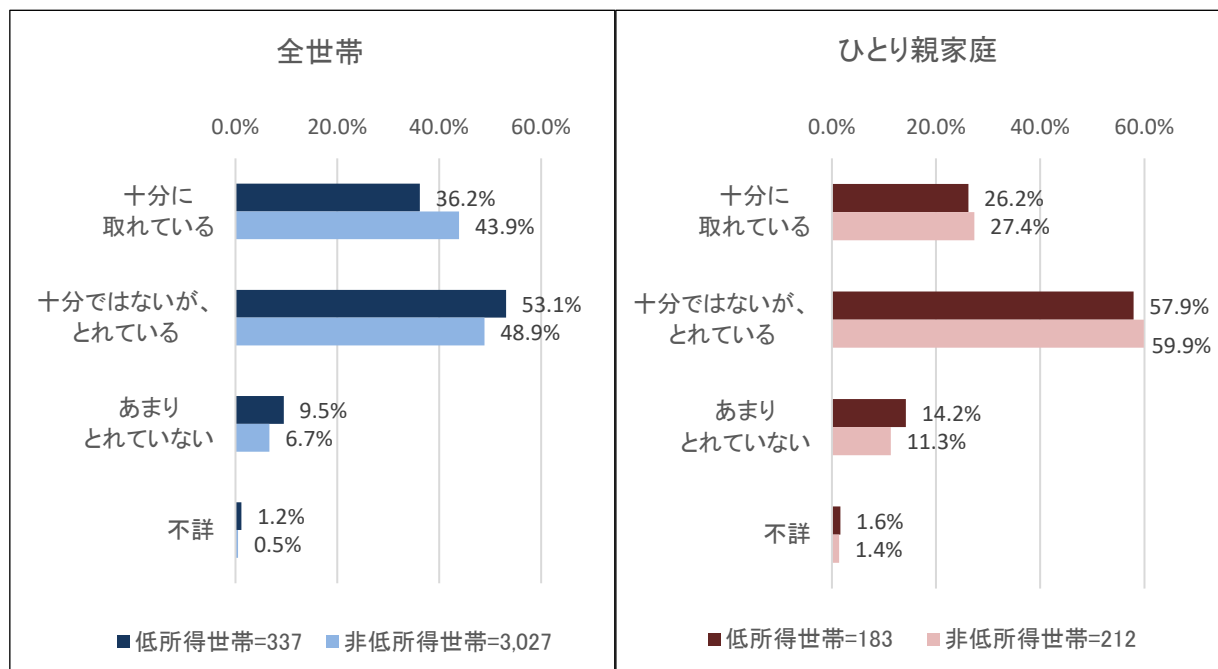
II 調査結果の概要

1. 子どもと過ごす時間（保護者回答）

～低所得世帯の方が、子どもと過ごす時間がとれていない～

- 子どもと過ごす時間について、全世帯において、低所得世帯では、「十分ではないが、とれている」(53.1%)が最も高く、次いで、「十分に取れている」(36.2%)となっており、非低所得世帯では、「十分ではないが、とれている」(48.9%)が最も高く、次いで、「十分に取れている」(43.9%)となっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「十分ではないが、とれている」(57.9%)が最も高く、次いで、「十分に取れている」(26.2%)となっており、非低所得世帯では、「十分ではないが、とれている」(59.9%)が最も高く、次いで、「十分に取れている」(27.4%)となっている。
- 所得類型別にみると、低所得世帯の方が子どもと過ごす時間をとれていない傾向があり、世帯類型別にみると、ひとり親家庭の方が子どもと過ごす時間をとれていない傾向にある。

図1 子どもと過ごす時間

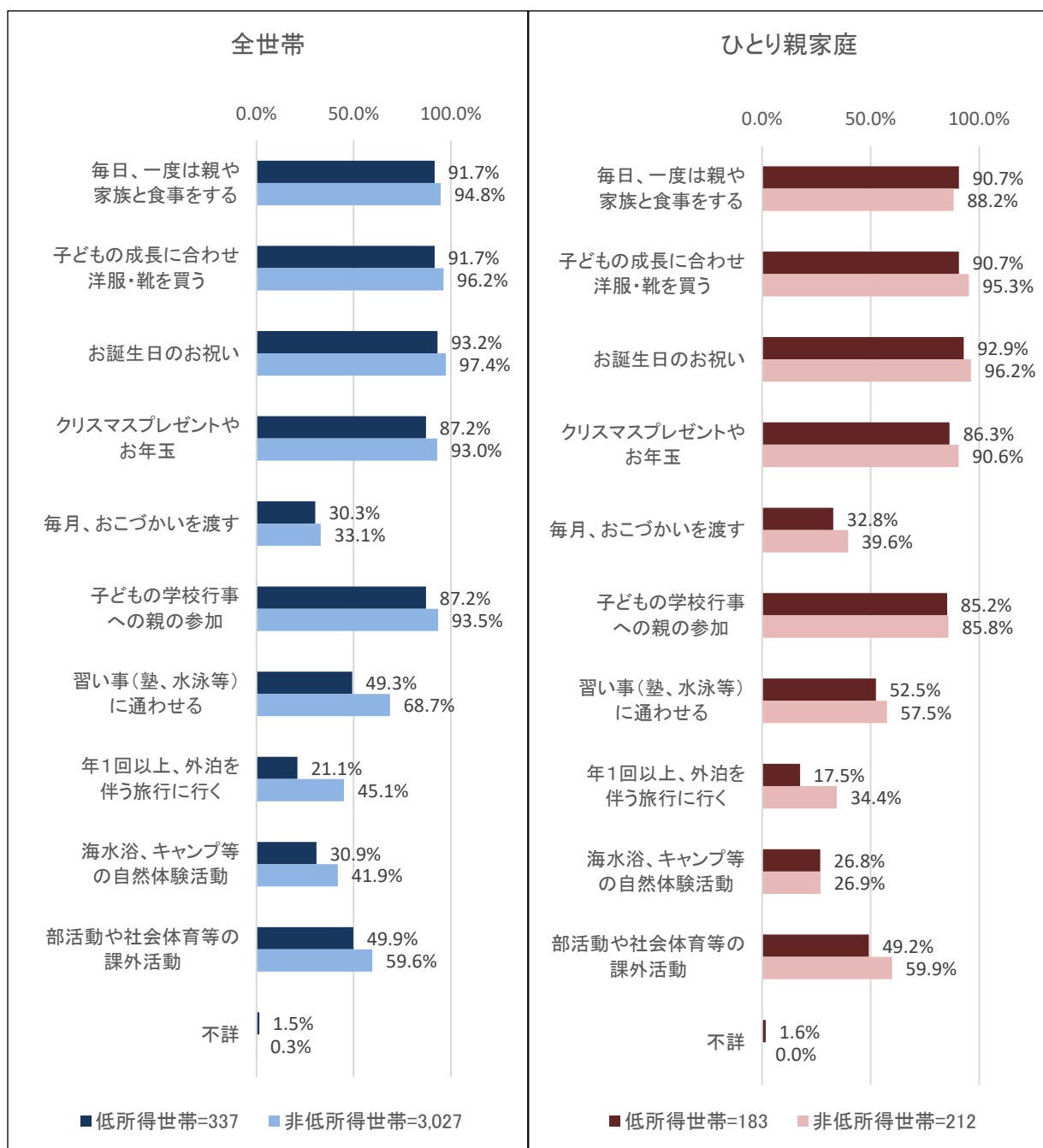


2. 子どもに行っている体験・経験（保護者回答）

～非低所得世帯の方が、子どもにより多く体験・経験をさせている～

- 子どもに行っている体験・経験について、全世帯において、低所得世帯では、「お誕生日のお祝い」(93.2%)が最も高く、次いで、「毎日、一度は親や家族と食事をする」(91.7%)、「子どもの成長に合わせ洋服・靴を買う」(91.7%)となっており、非低所得世帯では、「お誕生日のお祝い」(97.4%)が最も高く、次いで、「子どもの成長に合わせ洋服・靴を買う」(96.2%)、「毎日、一度は親や家族と食事をする」(94.8%)となっている。
- 全世帯において、所得類型別にみると、非低所得世帯の方がいずれも高い割合となっている。
- 世帯類型別にみると、ひとり親家庭の方が「毎月、おこづかいを渡す」割合が高くなっている。

図2 子どもに行っている体験・経験【複数回答】



3. 食事の頻度（児童回答）

～非低所得世帯では、朝食・夕食を毎日食べている割合が高い～

- 朝食の頻度について、全世帯において、低所得世帯では、「毎日食べる(週7日食べている)」(69.3%)が最も高く、次いで、「ほとんど毎日食べる(週5～6日食べている)」(20.1%)、「ほとんど食べない(週1～2日食べている)」(5.5%)となっており、非低所得世帯では、「毎日食べる(週7日食べている)」(84.0%)が最も高く、次いで、「ほとんど毎日食べる(週5～6日食べている)」(10.4%)、「半分くらいは食べる(週3～4日食べている)」(2.7%)、となっている。
- 夕食の頻度について、全世帯において、低所得世帯では、「毎日食べる(週7日食べている)」(93.3%)が最も高く、次いで、「ほとんど毎日食べる(週5～6日食べている)」(5.1%)、「半分くらいは食べる(週3～4日食べている)」(1.2%)となっており、非低所得世帯では、「毎日食べる(週7日食べている)」(96.2%)が最も高く、次いで、「ほとんど毎日食べる(週5～6日食べている)」(3.0%)、「半分くらいは食べる(週3～4日食べている)」(0.5%)となっている。

図3-1 食事の頻度(朝食)

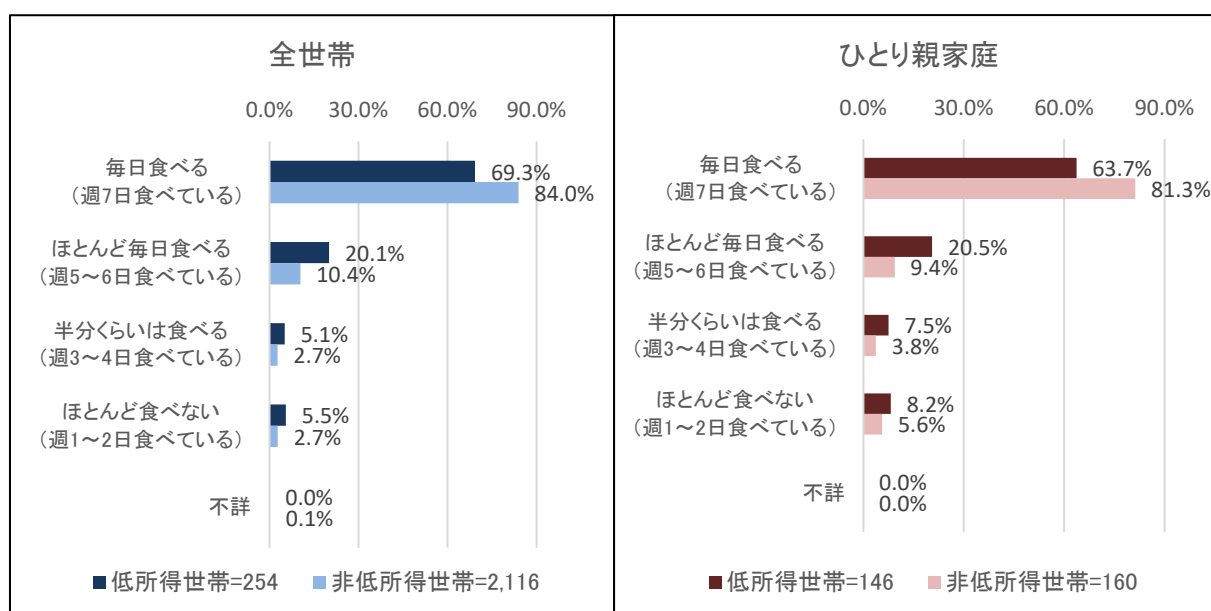
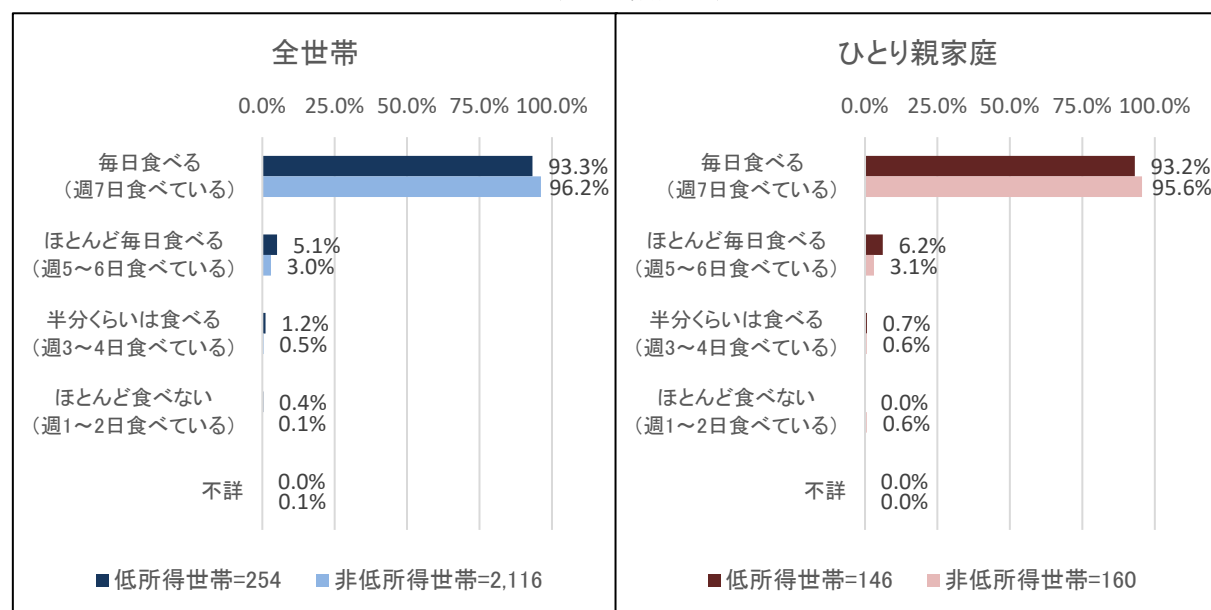


図3-2 食事の頻度(夕食)



4. 一緒に食事する相手（児童回答）

～ひとり親家庭の非低所得世帯では、子どもだけで食べている割合が高い～

- 平日の朝食については、全世帯において、低所得世帯では、「兄弟や姉妹」(63.0%)が最も高く、次いで、「母親」(59.1%)、「ひとりで食べる(誰とも一緒に食べない)」(22.4%)となっており、非低所得世帯では、「兄弟や姉妹」(65.1%)が最も高く、次いで、「母親」(58.0%)、「父親」(44.8%)となっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「母親」(58.2%)が最も高く、次いで、「兄弟や姉妹」(56.2%)、「ひとりで食べる(誰とも一緒に食べない)」(24.0%)となっており、非低所得世帯では、「母親」(43.1%)が最も高く、次いで、「ひとりで食べる(誰とも一緒に食べない)」(39.4%)、「兄弟や姉妹」(36.9%)となっている。
- 平日の夕食について、全世帯において、低所得世帯では、「母親」(85.0%)が最も高く、次いで、「兄弟や姉妹」(72.0%)、「祖父母」(33.1%)となっており、非低所得世帯では、「母親」(84.8%)が最も高く、次いで、「兄弟や姉妹」(75.4%)、「父親」(62.7%)となっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「母親」(82.2%)が最も高く、次いで、「兄弟や姉妹」(65.1%)、「祖父母」(31.5%)となっており、非低所得世帯では、「母親」(60.6%)が最も高く、次いで、「兄弟や姉妹」(42.5%)、「祖父母」(35.0%)となっている。

図4-1 一緒に食事する相手(平日の朝食)【複数回答】

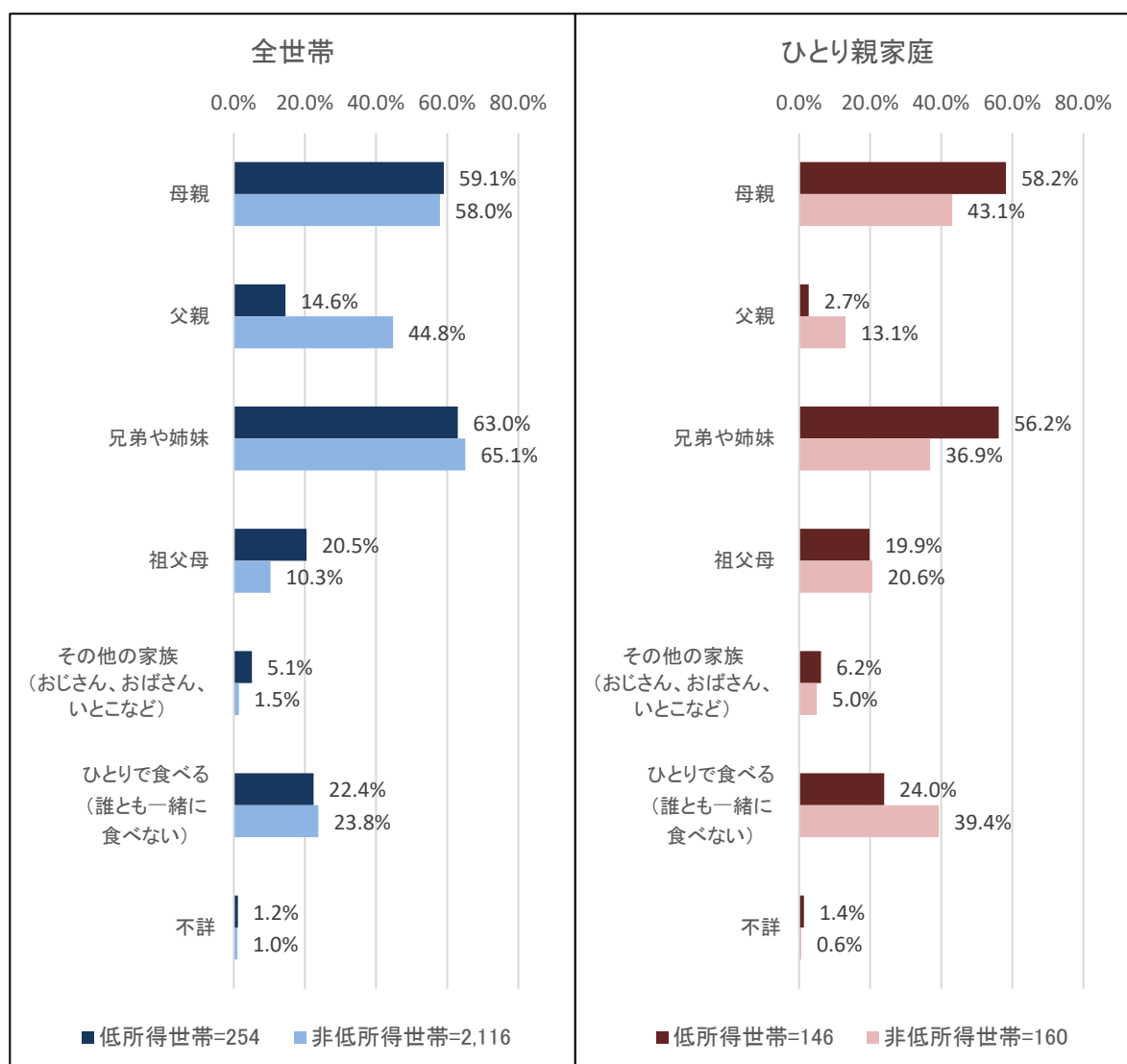
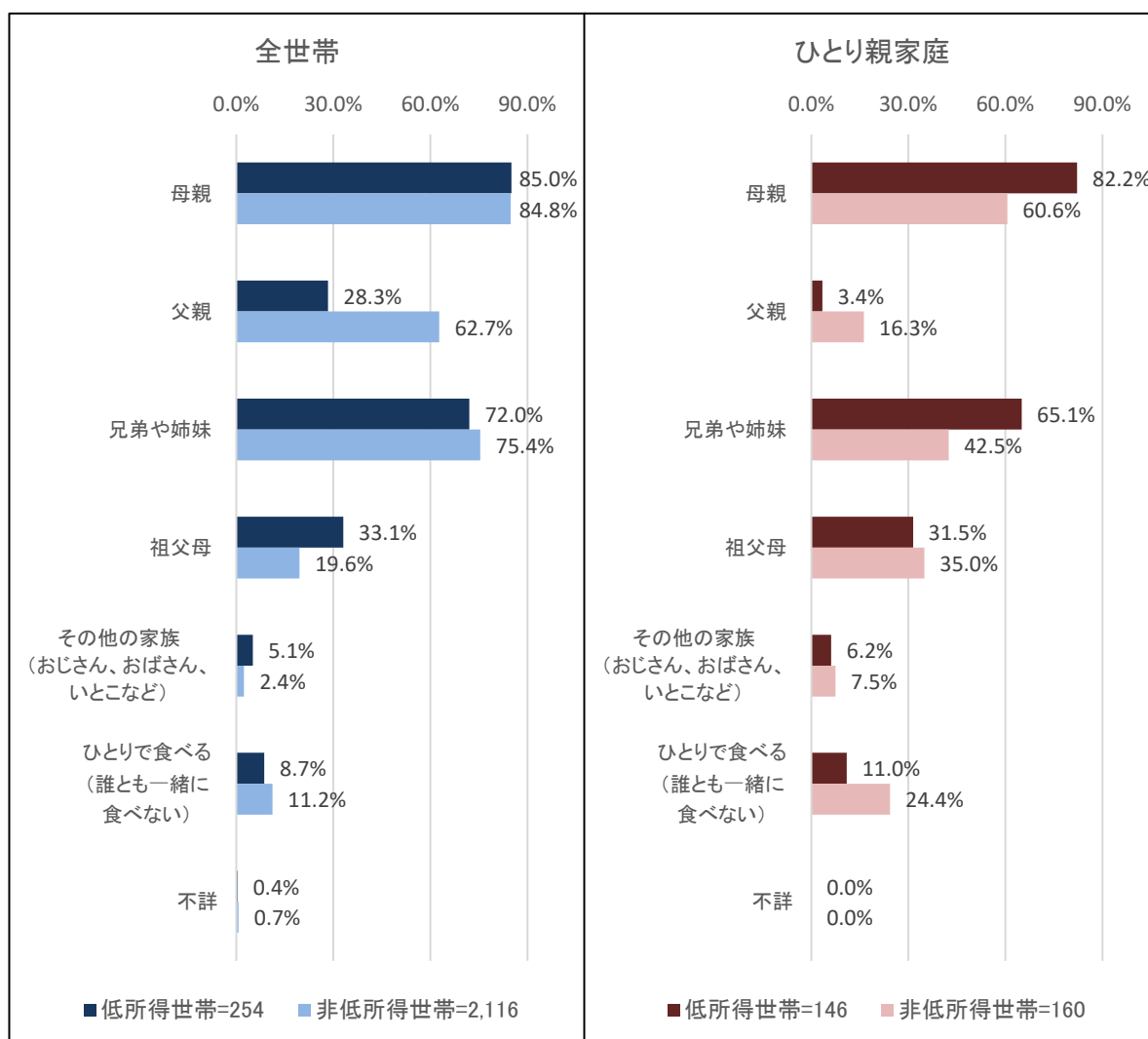


図4-2 一緒に食事する相手(平日の夕食)【複数回答】



5. 歯みがき・入浴の習慣（児童回答）

～低所得世帯では、歯みがき・入浴の習慣化が低い～

- 歯みがきの習慣について、全世帯において、低所得世帯では、「毎日する」(71.7%)が最も高く、次いで、「たまにしない日がある」(25.6%)、「しない日が多い」(1.6%)となっており、非低所得世帯では、「毎日する」(87.5%)が最も高く、次いで、「たまにしない日がある」(11.0%)、「しない日が多い」(1.1%)となっている。
- 入浴(お風呂・シャワー)の習慣について、全世帯において、低所得世帯では、「毎日する」(89.8%)が最も高く、次いで、「たまにしない日がある」(8.7%)、「しない日が多い」(0.4%)となっており、非低所得世帯では、「毎日する」(93.8%)が最も高く、次いで、「たまにしない日がある」(5.0%)となっている。
- 所得類型別にみると、歯磨きの習慣・入浴の習慣のいずれについても、非低所得世帯の方が「毎日する」の割合が高くなっている。

図5-1 歯みがきの習慣

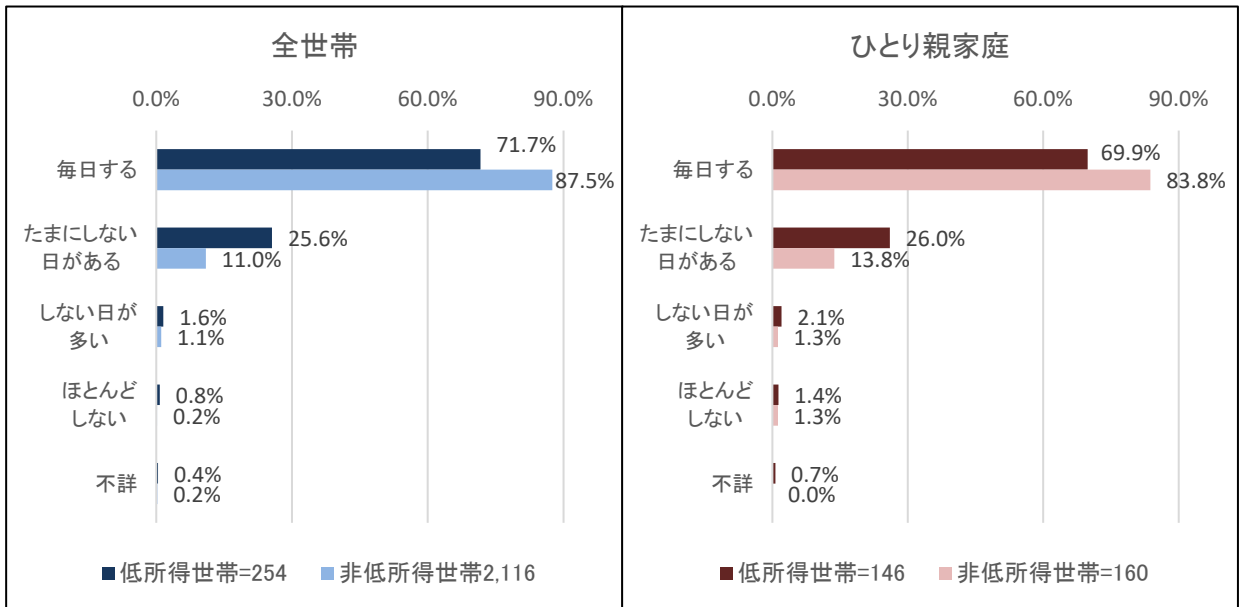
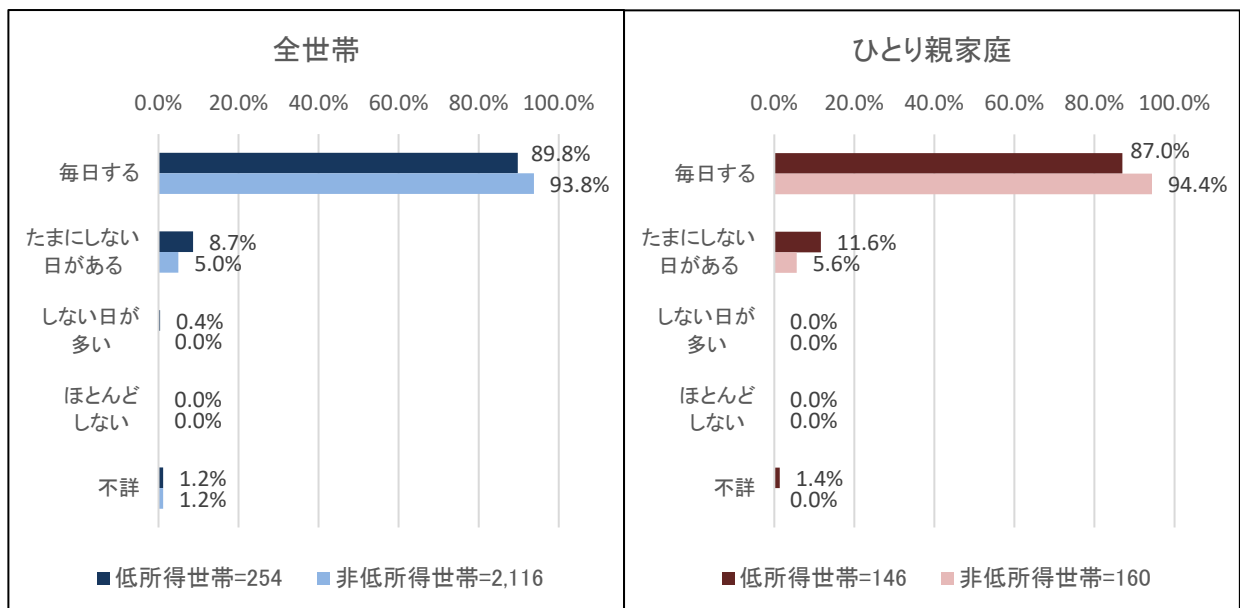


図5-2 入浴(お風呂・シャワー)の習慣

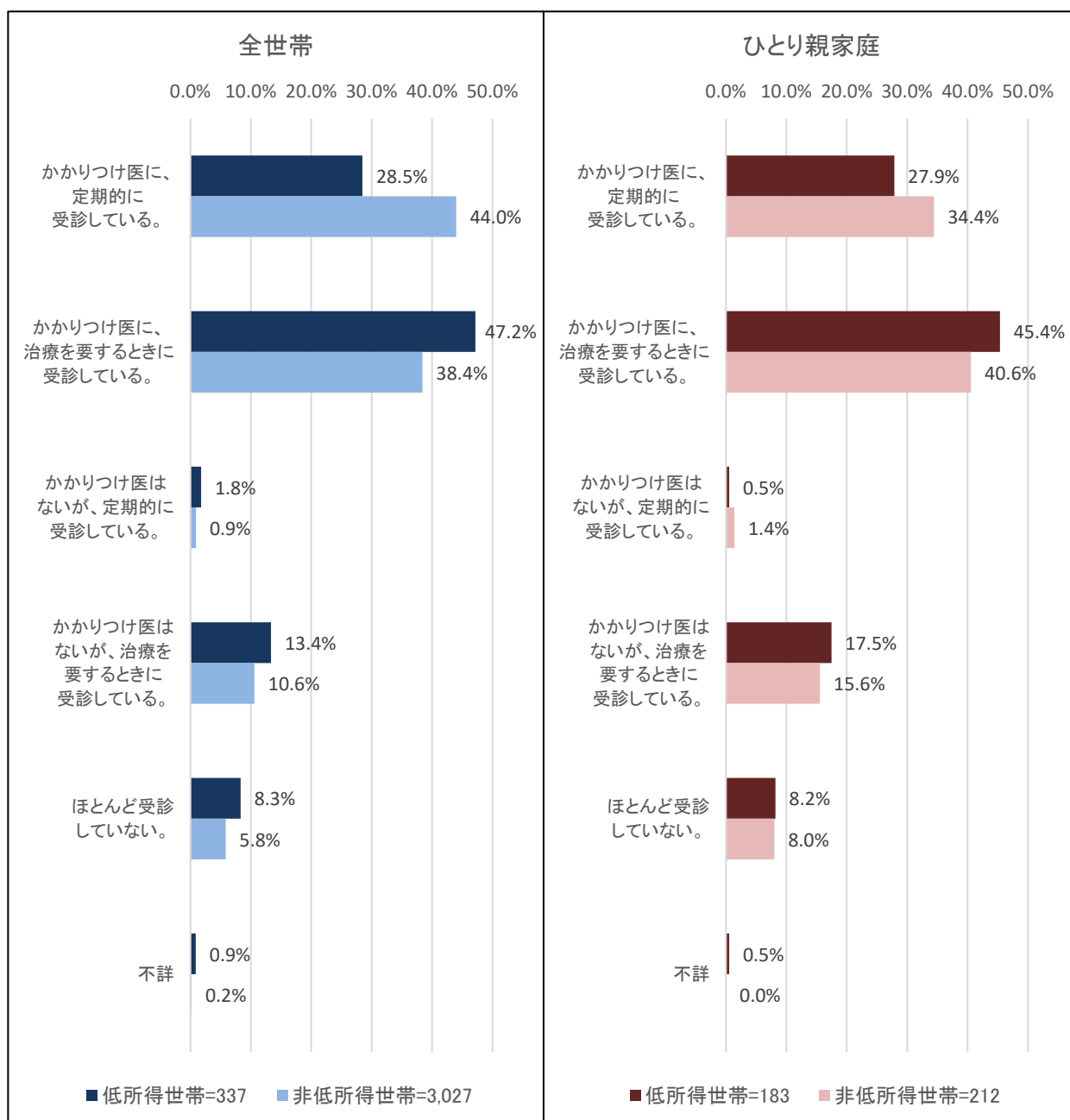


6. 子どもの歯科医の受診状況（保護者回答）

～非低所得世帯では定期的な受診が多く、低所得世帯では治療を要する際の受診が多い～

- 子どもの歯科医の受診状況について、全世帯において、低所得世帯では、「かかりつけ医に、治療を要するときに受診している。」(47.2%)が最も高く、次いで、「かかりつけ医に、定期的に受診している。」(28.5%)、「かかりつけ医はないが、治療を要するときに受診している。」(13.4%)となっており、非低所得世帯では、「かかりつけ医に、定期的に受診している。」(44.0%)が最も高く、次いで、「かかりつけ医に、治療を要するときに受診している。」(38.4%)、「かかりつけ医はないが、治療を要するときに受診している。」(10.6%)となっている。
- 所得類型別に見ると、非低所得世帯の方が「かかりつけ医に、定期的に受診している」の割合が高くなっており、かかりつけ医がある割合も高くなっている。低所得世帯では、「かかりつけ医に、治療を要するときに受診している」割合が高くなっている。

図6 子どもの歯科医の受診状況

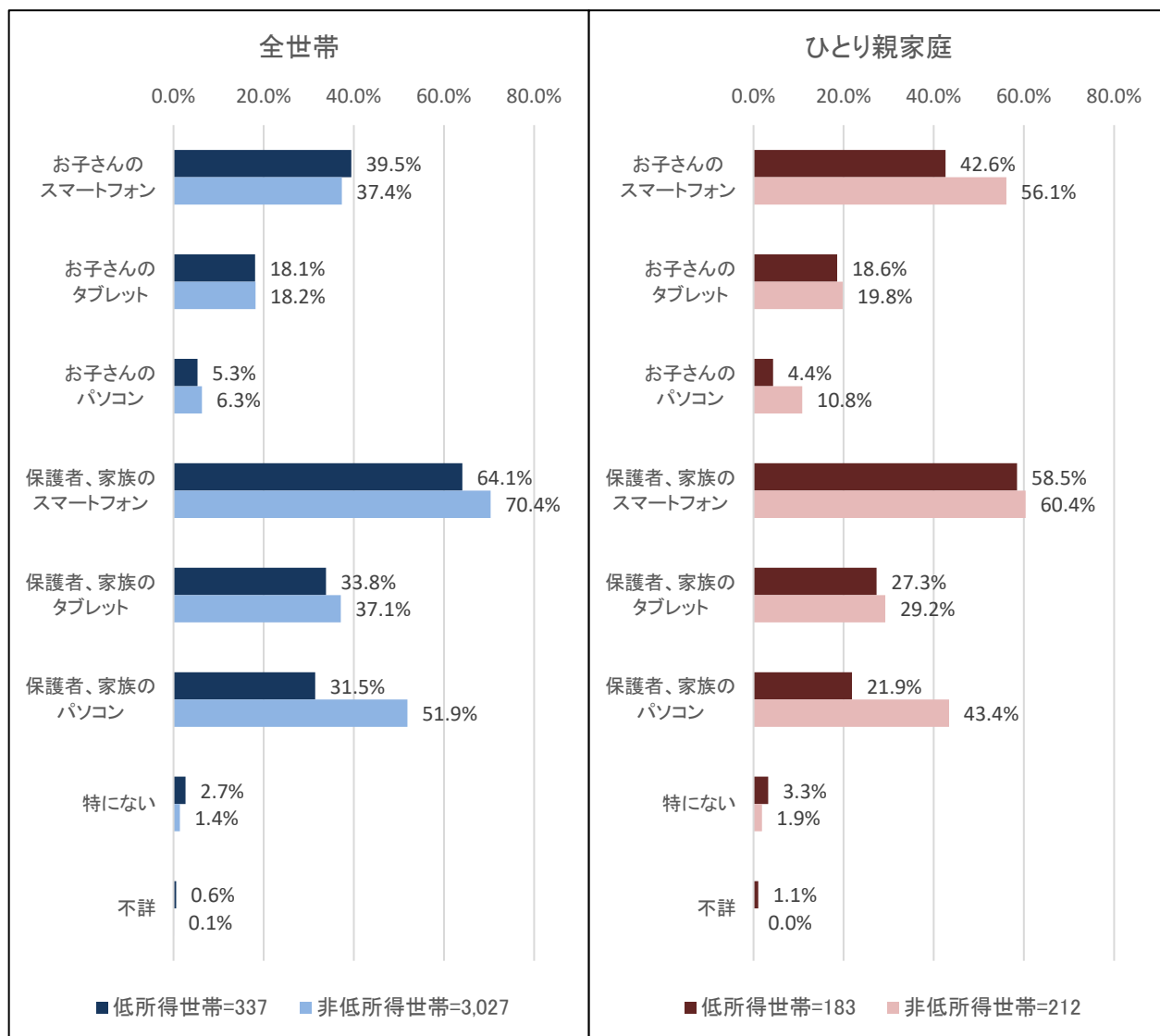


7. 家庭内でのインターネット環境（保護者回答）

～ひとり親家庭では、子どものスマートフォン等の保有率が高い～

- 家庭内でのインターネット環境について、全世帯において、低所得世帯では、「保護者、家族のスマートフォン」(64.1%)が最も高く、次いで、「お子さんのスマートフォン」(39.5%)、「保護者、家族のタブレット」(33.8%)となっており、非低所得世帯では、「保護者、家族のスマートフォン」(70.4%)が最も高く、次いで、「保護者、家族のパソコン」(51.9%)、「お子さんのスマートフォン」(37.4%)となっている。所得類型別にみると、低所得世帯の方が「お子さんのスマートフォン」の割合が高くなっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「保護者、家族のスマートフォン」(58.5%)が最も高く、次いで、「お子さんのスマートフォン」(42.6%)、「保護者、家族のタブレット」(27.3%)となっており、非低所得世帯では、「保護者、家族のスマートフォン」(60.4%)が最も高く、次いで、「お子さんのスマートフォン」(56.1%)、「保護者、家族のパソコン」(43.4%)となっている。
- 世帯類型別にみると、全世帯では、「保護者、家族のスマートフォン」、「保護者、家族のタブレット」、「保護者、家族のパソコン」の割合が高く、ひとり親家庭では「お子さんのスマートフォン」、「お子さんのタブレット」、「お子さんのパソコン」の割合が高くなっている。

図7 家庭内でのインターネット環境【複数選択】

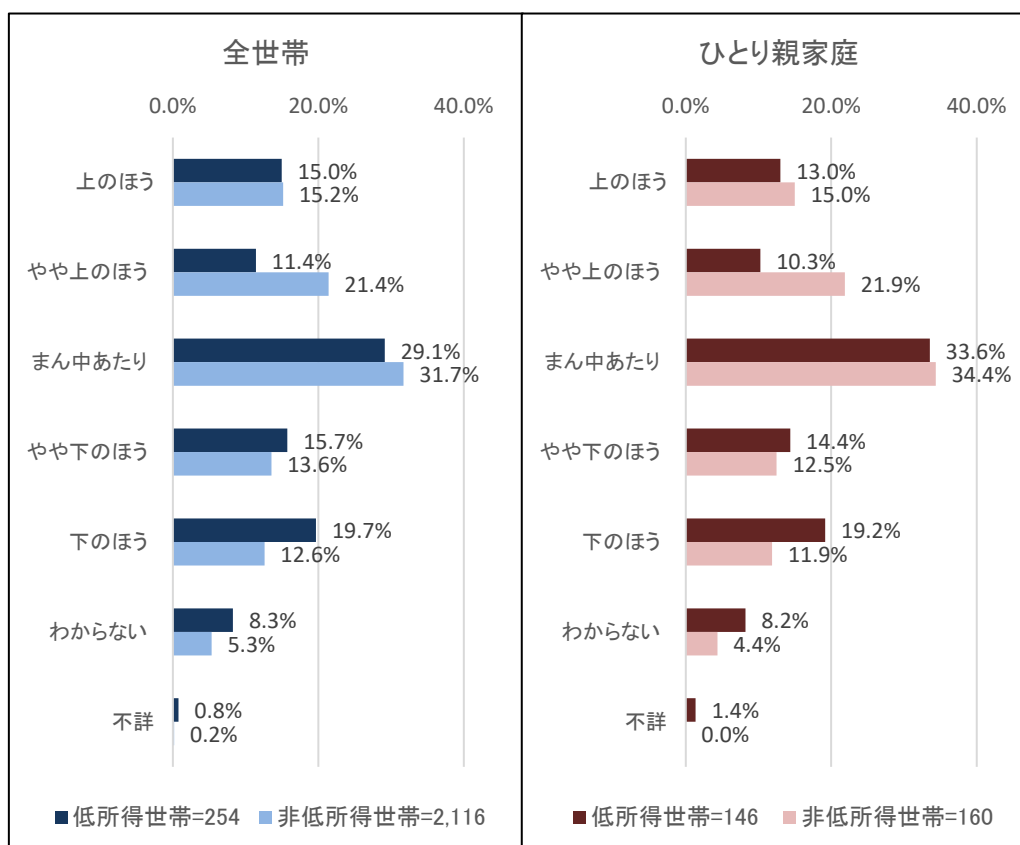


8. クラス内での学習成績（児童回答）

～非低所得世帯では成績が上の方、低所得世帯では下の方と感じている割合が高い～

- クラス内の学習成績について、全世帯において、低所得世帯では、「まん中あたり」(29.1%)が最も高く、次いで、「下のほう」(19.7%)、「やや下のほう」(15.7%)となっており、非低所得世帯では、「まん中あたり」(31.7%)が最も高く、次いで、「やや上のほう」(21.4%)、「上のほう」(15.2%)となっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「まん中あたり」(33.6%)が最も高く、次いで、「下のほう」(19.2%)、「やや下のほう」(14.4%)となっており、非低所得世帯では、「まん中あたり」(34.4%)が最も高く、次いで、「やや上のほう」(21.9%)、「上のほう」(15.0%)となっている。
- 所得類型別にみると、非低所得世帯の方が「上のほう」、「やや上のほう」の割合が高く、低所得世帯の方が「やや下のほう」、「下のほう」の割合が高くなっている。

図8 クラス内での学習成績



9. 希望する進学先（児童回答）

～非低所得世帯の方が、より高い進学先を希望している～

- 希望する進学先として「大学・大学院まで」の進学を希望する割合について、全世帯において、低所得世帯では、小5低所得世帯(21.7%)、中2低所得世帯(19.5%)、高2低所得世帯(普通)(71.8%)、高2低所得世帯(実業)(12.2%)となっており、非低所得世帯では、小5非低所得世帯(30.7%)、中2非低所得世帯(39.9%)、高2非低所得世帯(普通)(82.7%)、高2非低所得世帯(実業)(11.4%)となっている。
- 子どもの年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「大学・大学院まで」の割合が増加する傾向にある。
- 高2世帯の学科別にみると、所得類型にかかわらず、高2世帯(実業)では「高校まで」の割合が高くなっている。
- 所得類型別にみると、子どもの年齢にかかわらず、非低所得世帯の方がより高い進学先を希望している傾向にある。

図9-1希望する進学先(低所得世帯)

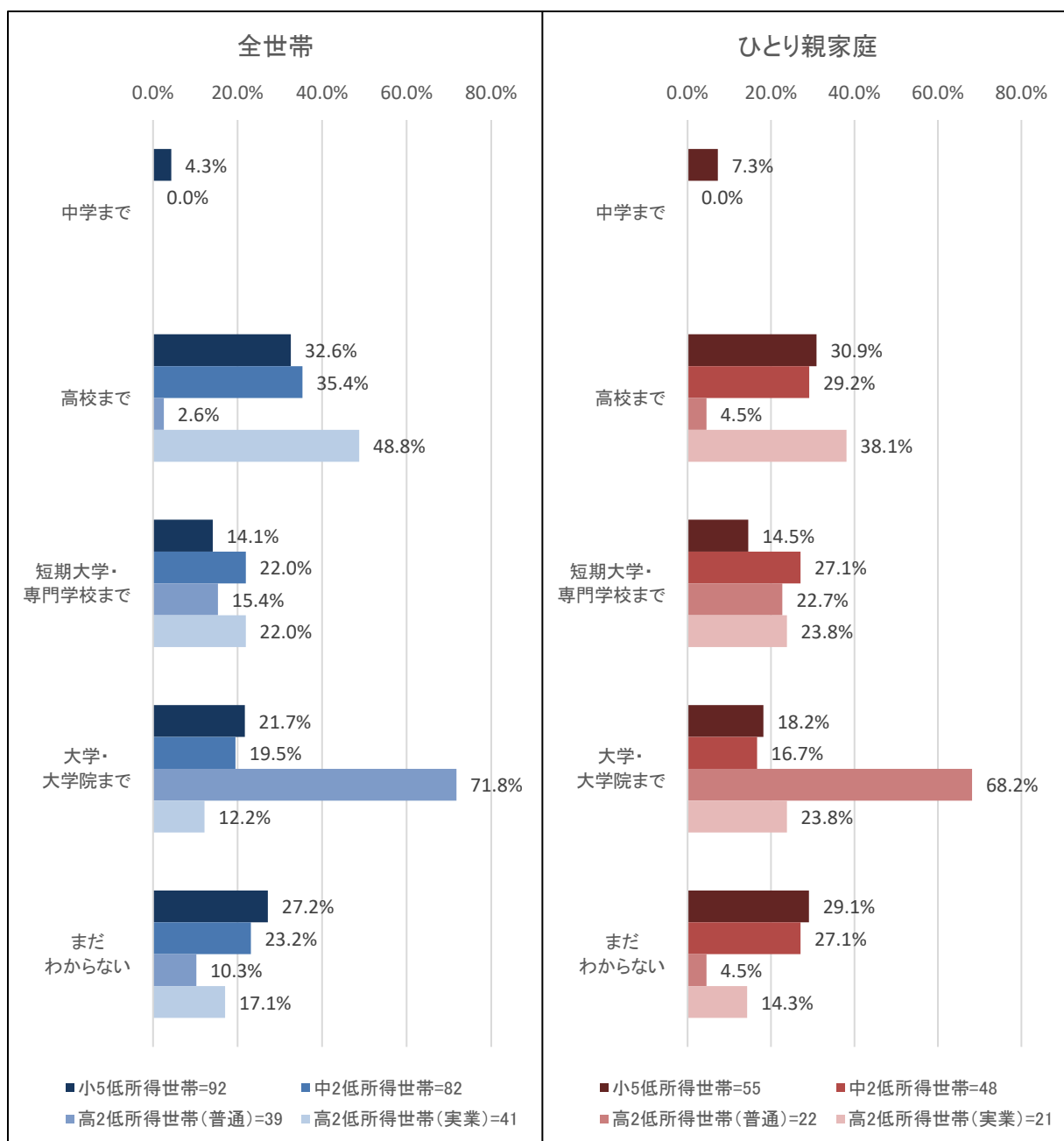
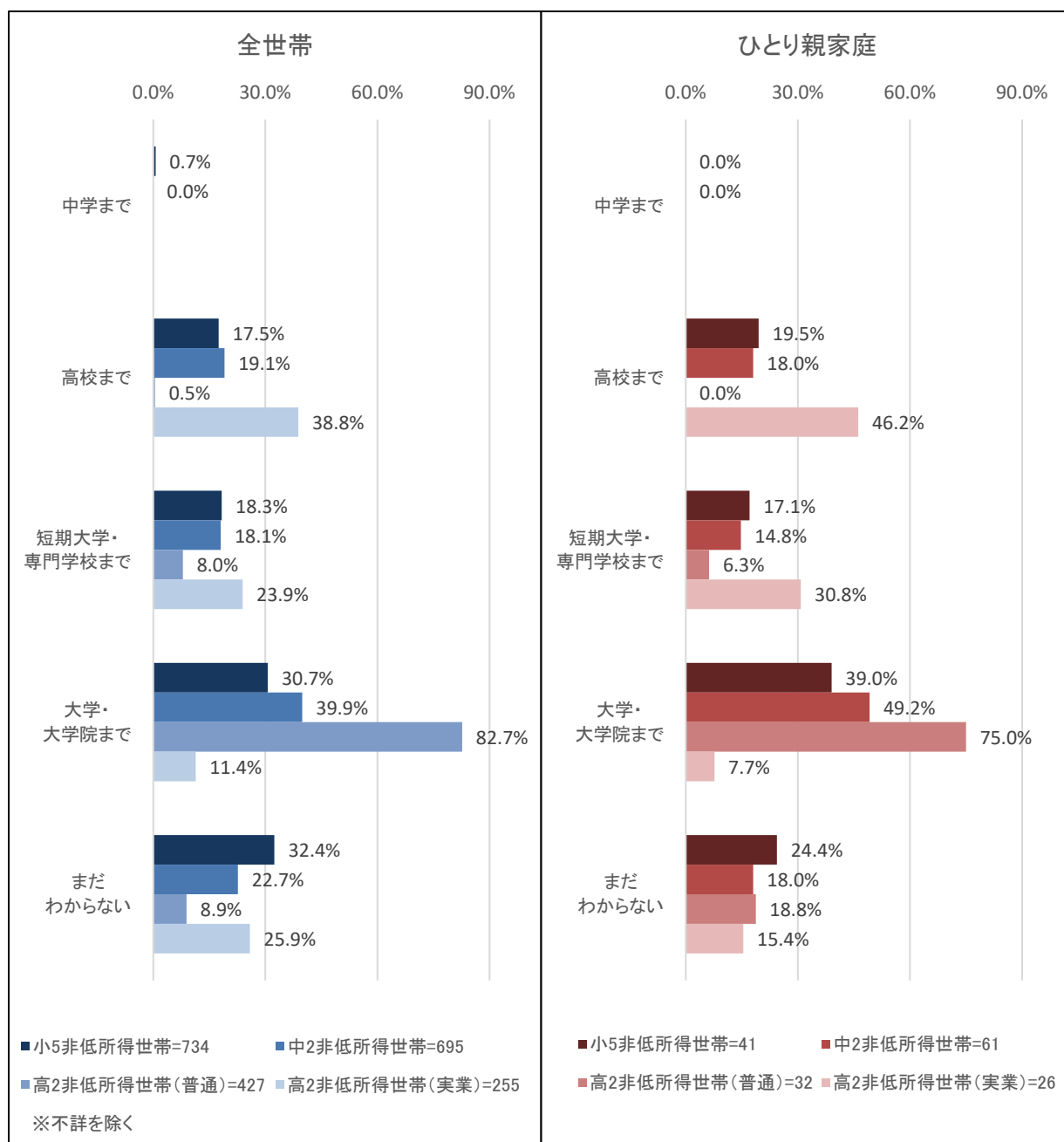


図9-2 希望する進学先(非低所得世帯)



10. 想定する子どもの進学先（保護者回答）

～非低所得世帯の方が、より高い進学先を想定している～

- 想定する子どもの進学先として「大学・大学院またはそれ以上」への進学を想定する割合について、全世帯において、低所得世帯では、小2低所得世帯(11.8%)、小5低所得世帯(14.7%)、中2低所得世帯(22.6%)、高2低所得世帯(普通)(68.3%)、高2低所得世帯(実業)(9.8%)となっており、非低所得世帯では、小2非低所得世帯(33.7%)、小5非低所得世帯(36.8%)、中2非低所得世帯(41.4%)、高2非低所得世帯(普通)(81.1%)、高2非低所得世帯(実業)(10.0%)となっている。
- 子どもの年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「まだわからない」の割合が減少し、「大学・大学院またはそれ以上」の割合が増加する傾向にある。
- 高2世帯の学科別にみると、所得類型にかかわらず、高2世帯(実業)では「高校まで」の割合が高くなっている。
- 所得類型別にみると、子どもの年齢にかかわらず、非低所得世帯の方がより高い進学先を想定している傾向にある。

図10-1 想定する子どもの進学先(低所得世帯)

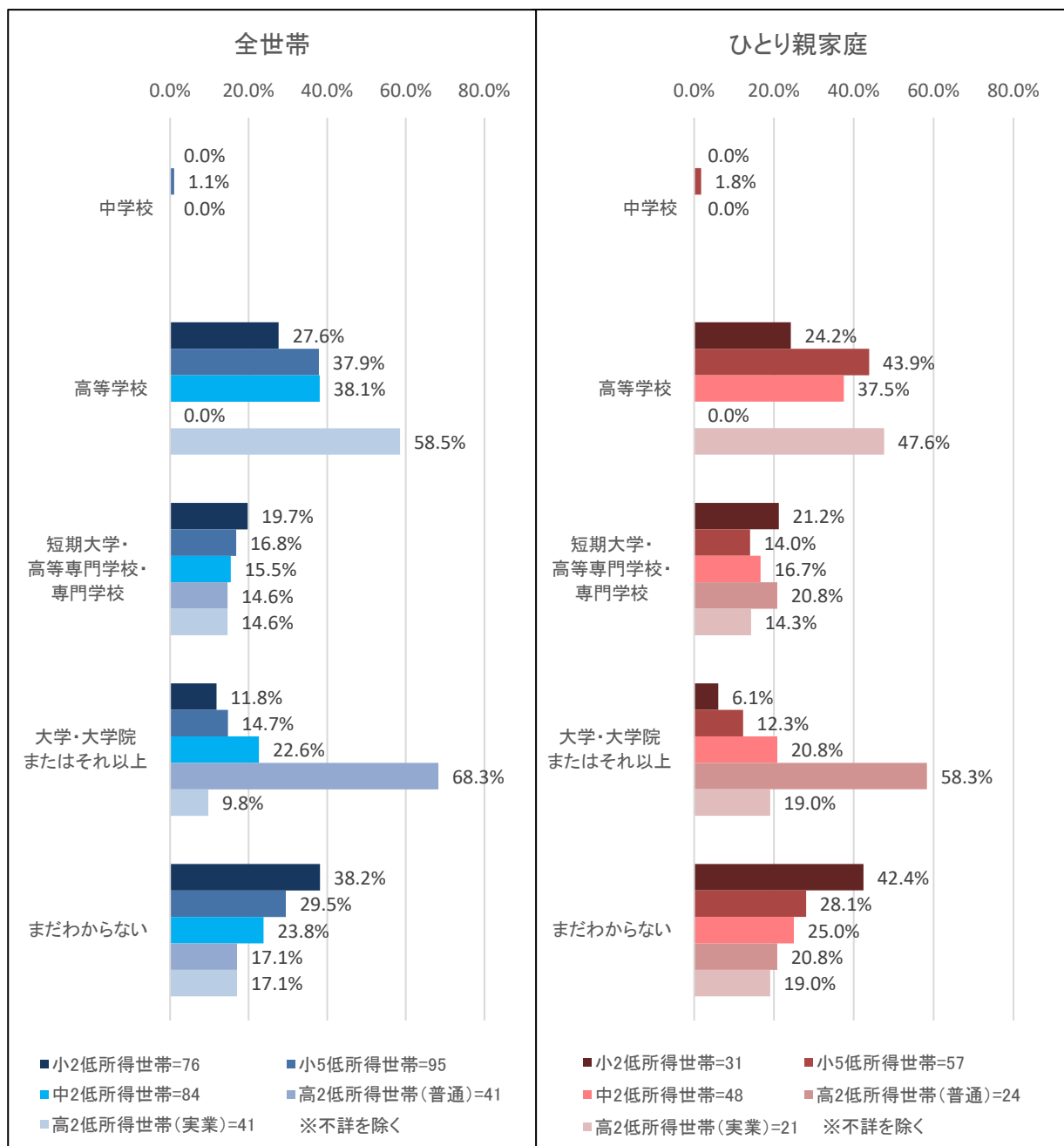
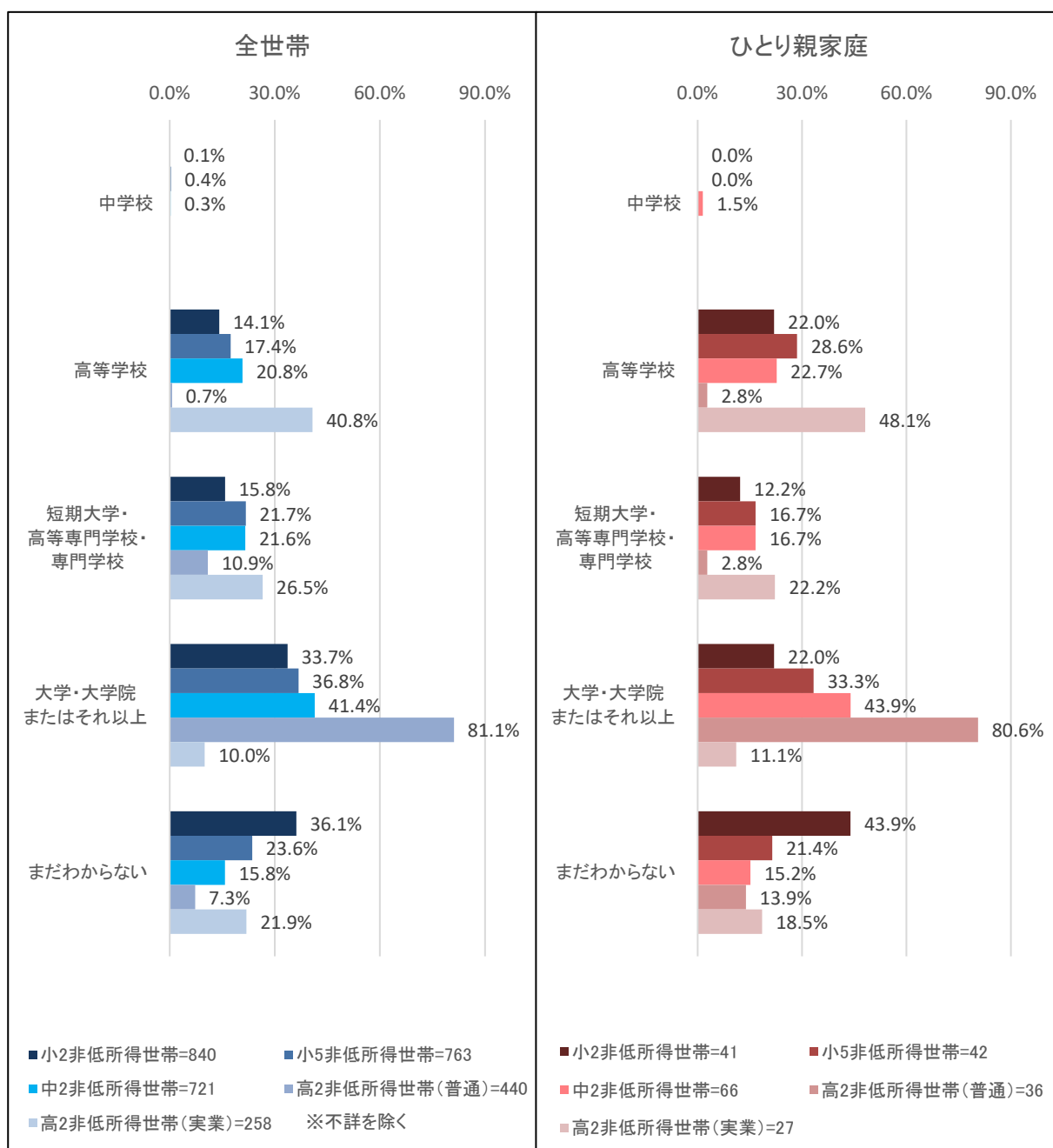


図10-2 想定する子どもの進学先(非低所得世帯)

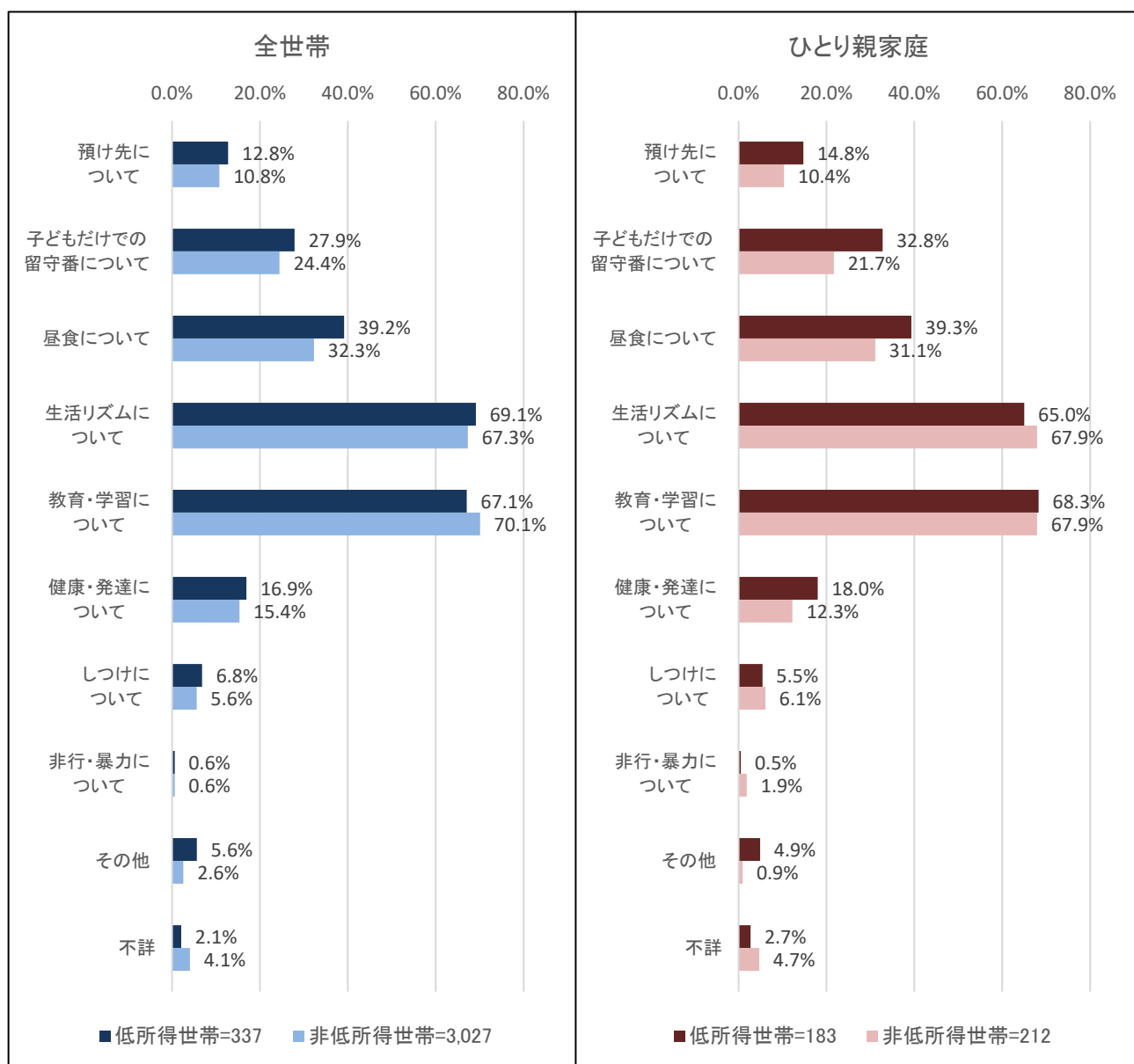


11. コロナ禍で困ったこと（保護者回答）

～コロナ禍で、子どもの教育・学習、生活リズムについて困る家庭が多い～

- コロナ禍で子どものことで困ったことについて、全世帯において、低所得世帯では、「生活リズムについて」(69.1%)が最も高く、次いで、「教育・学習について」(67.1%)、「昼食について」(39.2%)となっており、非低所得世帯では、「教育・学習について」(70.1%)が最も高く、次いで、「生活リズムについて」(67.3%)、「昼食について」(32.3%)となっている。
- 世帯類型別にみると、それぞれ大きな差は見られず、「教育・学習について」、「生活リズムについて」の割合が高くなっている。
- 所得類型別にみると、低所得世帯の方が「預け先について」、「子どもだけの留守番について」、「昼食について」、「健康・発達について」の割合が高くなっている。

図11 コロナ禍で困ったこと【複数回答】

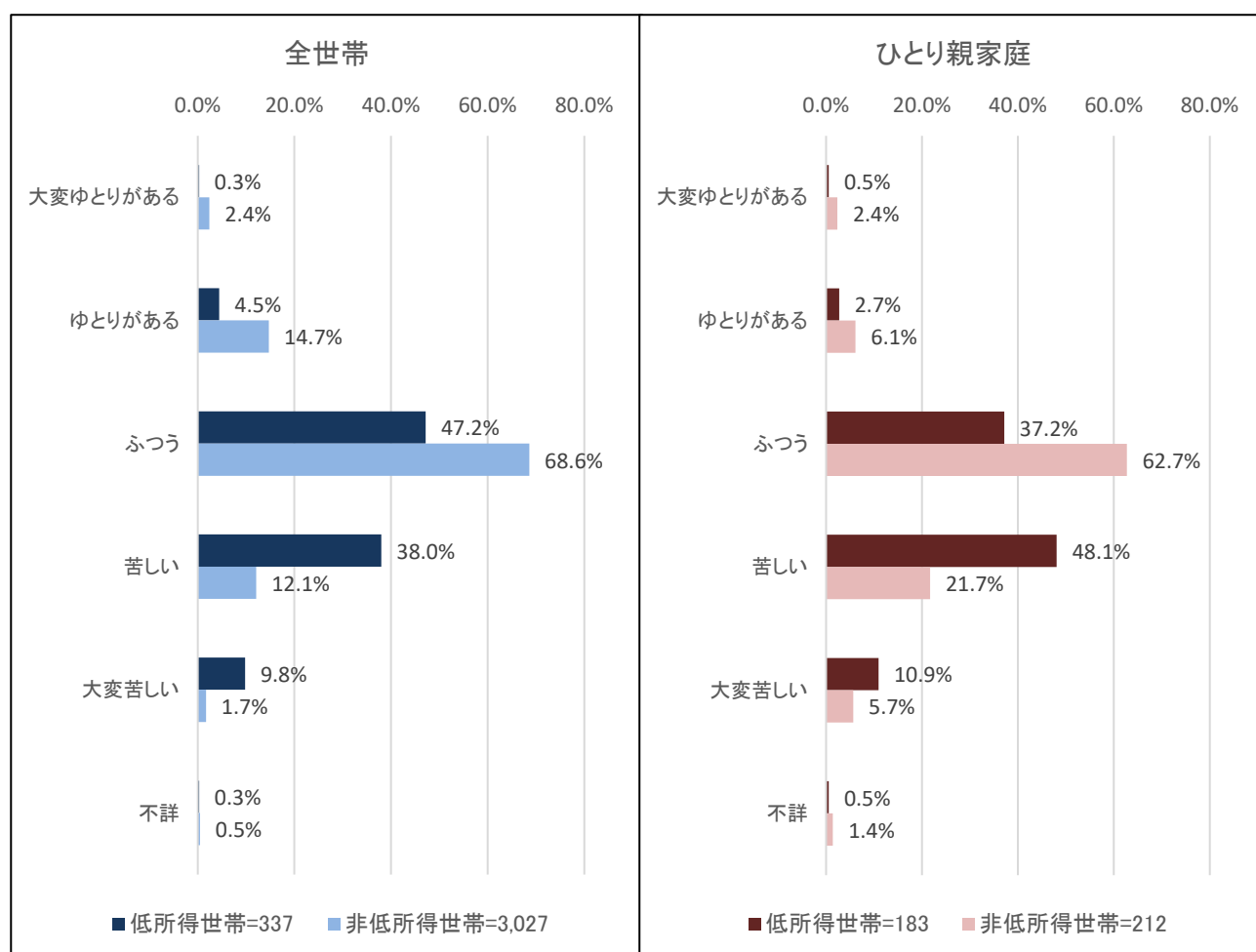


12. 暮らし向き（保護者回答）

～全世帯の17.2%で暮らし向きが苦しいと感じている～

- 暮らし向きについて、全世帯において、低所得世帯では、「苦しい」(38.0%)、「大変苦しい」(9.8%)の合計が47.8%となっており、非低所得世帯では、「苦しい」(12.1%)、「大変苦しい」(1.7%)の合計が13.8%となっている。
- ひとり親家庭において、低所得世帯では、「苦しい」(48.1%)、「大変苦しい」(10.9%)の合計が59.0%となっており、非低所得世帯では、「苦しい」(21.7%)、「大変苦しい」(5.7%)の合計が27.4%となっている。
- 世帯類型別にみると、ひとり親家庭のほうが現在の暮らしの状況を苦しいと感じている。

図12 暮らし向き





発行／佐賀県健康福祉部男女参画・こども局
こども家庭課
〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
電話 0952-25-7056